

いたばし魅力ある学校づくり審議会第２回審議会の開催状況について

１ 第２回審議会の開催状況

令和４年６月２３日（木）午後３時より、第２回審議会を開催した。

《次 第》

１ 委嘱状交付

委員構成の変更に伴い委嘱状を交付し、事務局より委員の紹介を行った。
※別紙１：審議会資料１「いたばし魅力ある学校づくり審議会委員名簿」

【議 題】

１ 第１回審議会議事録の区ホームページへの公開について

第１回審議会の議事録を確認し、公開について承認された。
※別紙２：審議会資料３「第１回審議会における主な意見等」

２ 第１回小委員会の報告について

以下の項目について、第１回小委員会における協議内容を報告した。
（１）委員長及び副委員長の選出について
（２）審議の進め方について
（３）小委員会での協議について
※別紙３：審議会資料４「第１回小委員会報告」

３ 意見交換（諮問内容に対する議論の視点や方向性）

審議会で議論すべき視点や各委員がもつ意見の洗い出しを行い、論点の整理とあわせて以下の項目について小委員会へ議論を付託した。
（１）適正規模
学校規模による強みと課題、学校規模、学級規模
（２）適正配置
学校に求められる役割、少子化社会を見据えた配置方針
（３）適正規模化の方法
小規模校対応、大規模校対応

４ その他

事務局より次回審議会の日程を案内した。

2 これまでの検討会開催経過

回	開催月日	内容
第1回	令和4年4月19日	<ul style="list-style-type: none">●会長・副会長の選出●諮問、諮問内容説明●審議期間、審議会運営について●呼称や小委員会設置に関する協議●前回答申やいたばし魅力ある学校づくりプラン等に関する報告

3 次回審議会の予定

令和4年8月9日の開催を予定している。

いたばし魅力ある学校づくり審議会委員名簿

令和 4 年 6 月 23 日現在

NO	区分	審議会 役職	小委員会 役職・委員	氏名	フリガナ	所属・役職
1	学識経験者	会長		天竺 茂	アマガサ シゲル	千葉大学教育学部 名誉教授
2		副会長	委員長	小林 福太郎	コバヤシ フクタロウ	東京女子体育大学 教授
3			○	倉斗 綾子	クラカズ リョウコ	千葉工業大学創造工学部デザイン科学科 准教授
4				斎尾 直子	サイオ ナオコ	東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 准教授
5				松波 紀幸	マツナミ ノリユキ	帝京大学教職センター教育学部初等教育学科 准教授
6	区議会議員			坂本 あずまお	サカモト アズマオ	板橋区議会 議長
7				安井 一郎	ヤスイ イチロウ	板橋区議会 文教児童委員長
8	区民委員			露木 保文	ツユキ ヤスフミ	板橋区町会連合会 副会長
9				古谷 茂	フルタニ シゲル	板橋区青少年健全育成地区委員会連合会 会長
10			○	緑川 有紀	ミドリカワ ユキ	板橋区青少年委員会 会計
11			○	小宮 慶之	コミヤ ヨシユキ	板橋区立小学校PTA連合会 会長
12			副委員長	横川 隆之	ヨコカワ タカユキ	板橋区立中学校PTA連合会 顧問
13				木村 縁理	キムラ ユカリ	区民公募
14				田邊 和子	タナベ カズコ	区民公募
15	区職員			橋本 正彦	ハシモト マサヒコ	板橋区副区長
16			○	中川 修一	ナカガワ シュウイチ	板橋区教育委員会教育長
17	区立学校 教職員		○	中川 久亨	ナカガワ ヒサミチ	板橋区立桜川小学校 校長
18			○	伊藤 聡	イトウ サトシ	板橋区立板橋第一中学校 校長

第 1 回審議会における主な意見等

1. 審議会の議論は非常に広範囲にわたるものになると思うので、事前に審議会の進め方（議題の選定など）を提示していただけると議論が進みやすい。
2. 平成 24 年の審議会答申以降、学校規模・学級規模の適正化に向けた取組と結論を知りたい。
3. 現在及び 10 年後の児童・生徒数を知りたい。
4. （適正化に向けた進め方について）関係者への広報活動や情報提供を通して意識の啓発を行う、問題意識を共有し合意形成を図ることは非常に重要だと思うが、この 10 年間で具体的にどのような取組があったのか知りたい。
5. 資料 8（「いたばし魅力ある学校づくりプラン」前期計画進捗経過（まとめ））と諮問内容・課題はリンクしているのか。また、審議会の中で説明し、共有する必要がある。
6. これまでの取組・成果があるのにゼロベースでやる必要はない。取組の中で生じている課題を中心に審議することが効率的・合理的である。
7. 教育環境に関すること（あいキッズなど放課後過ごす場、特別支援教室や新たな取組として不登校の生徒が学ぶ場に対する取組）が現状どうなっているのか、資料を出した方がよい。

第1回 いたばし魅力ある学校づくり審議会 小委員会

日時 令和4年5月31日(火) 14:00～15:45

場所 区役所北館 6 階 教育委員会室

1 委員長及び副委員長の選出について

小林 委員長

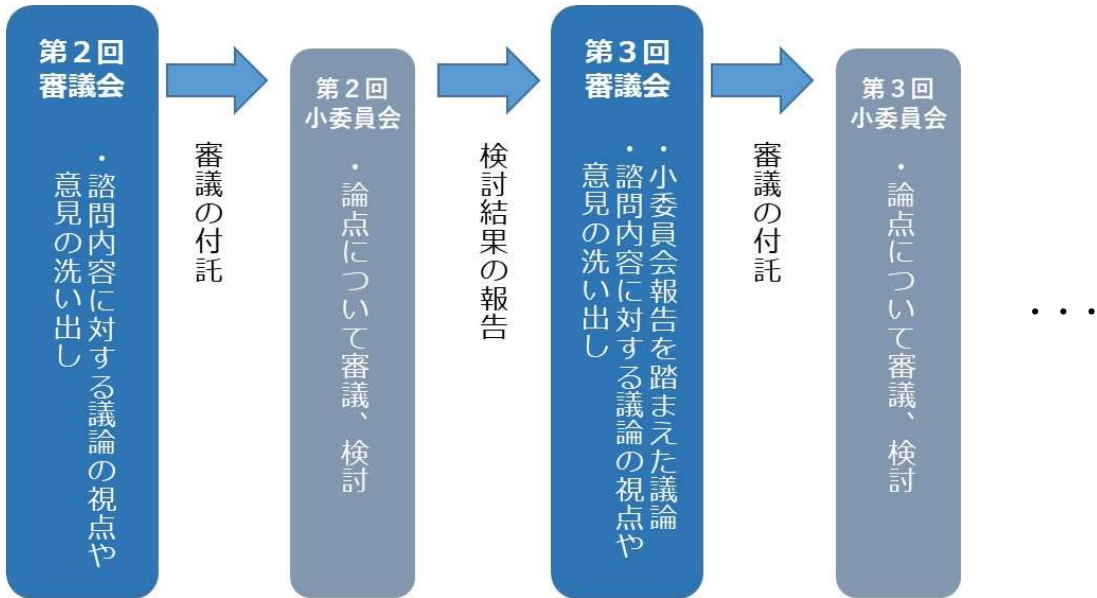
横川 副委員長

2 審議の進め方について

(1) 審議スケジュール

		令和4年												令和5年												令和6年											
月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月									
審議会(回)		①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧		⑨		⑩		⑪		⑫		⑬		⑭									
小委員会(回)			①		②		③		④		⑤		⑥		⑦		⑧		⑨		⑩		⑪		⑫		⑬										
1	適正規模																									<div>中間のまとめ検討</div> <div>中間のまとめ完成</div> <div>パブリックコメントの実施結果</div> <div>答申</div>											
2	適正配置																																				
3	適正規模化の方法																																				
4	通学区域																																				
5	小中一貫型学校																																				
6	地域協議																																				
7	施設内容・施設更新 その他事項																																				

(2) 審議会と小委員会の関係



3 小委員会での協議について

(1) 適正規模について

- ① 適正規模には2つの意味があり、学級数（学校規模）と学級人数（学級規模）を区別して検討しないといけない。
- ② 国の手引き等で書かれている適正規模化の目的は、小規模校の適正規模化に焦点が当てられていることが多く、大規模校を適正規模化する目的からも議論した方がよい。
- ③ 地域や学校によって状況は異なるため、地域別・学校別に検討してもいいのではないかな。
- ④ 単学級ではデメリットが多く、子どもや保護者間のトラブルがあった場合にも複数学級であれば指導・対応の幅が広がる。
- ⑤ 児童・生徒数が少ない方が一人ひとりを把握しやすいが、子ども同士の関係に問題がある場合や社会性を育む視点からは課題が生じやすく、複数学級が望ましいといえる。
- ⑥ 教員の育成やジョブローテーションの観点では、学級数を一定程度確保することによって教師間の学びあいができ、若手に対してベテランが模範授業を行うなど、OJTによる人材育成に取り組むやすい。
- ⑦ 養護教諭や専科教員等は、大規模校になれば負担は大きい。
- ⑧ 大規模校でも小規模校でもやらなければならないこと（校務分掌）は同じであり、大規模校では分担できるが、小規模校では一人当たりの負担が大きい。
- ⑨ 1学年9学級、1学級45人の中学校で勤務した経験からすると運動会等学校行事は活気があってよいが、校外での移動が繁雑となったり、個人情報管理が膨大であったり、運営面・安全面等で難しい面もある。
- ⑩ 大規模集合住宅の建設により大規模校となっているのであれば、いずれ子どもの数は減っていくのではないかな。今後も子供が増え続けるのか、減っていくのかにより対応は異なる。
- ⑪ 学校規模に関わらず板橋の子どもたちには同じ教育を受けてもらいたい。小中学校でいい思い出を作るとはとても大事で、学校が大きいかな小さいかは別の話である。板橋で教育を受けてよかったと思えるような学校づくりをしてもらいたい。

(2) 1学級あたりの人数について

- ① 35人学級編制が導入されている小学校1年生から3年生の1学級あたりの平均人数は27、28人であり、きめ細かな指導が実践しやすくなっている。
- ② 1学級あたりの人数に関して少ない方がいいと考えられることもあるが、一定程度人数がいた方が集団の中で社会的な学びや協働的な学びができるので、国で定める35人学級編制により対応してもいいのではないかな。
- ③ 学校規模によるメリット・デメリットはあるものの、見方により異なる。例えば、中学校では数学や英語では習熟度別少人数授業が実施されており、デメリットは解消できているのではないかな。

- ④ 国が 35 人学級編制を導入している中、1 学級あたりの人数を区が独自に定める必要があるのか議論が必要である。
- ⑤ 答申に 1 学級あたりの人数に関する記載を含める場合、その実現には区費教員の採用が必要となるが、他区でも財政面のほか異動や昇任などのキャリア面でも課題は多いと聞いている。
- ⑥ 建築的な視点で考えると 35 人の座席配置は 7 列×5 列しかないため調整がしづらい。また、理科室や図工室は 4 人机が多いが、40 人を 35 人にしても 1 台しか減らすことができない。区で独自に基準を設けるのであれば、ハード面でも効果が出るような人数を考えてはどうか。

(3) その他

- ① 前野小学校では通学区域内で 4 棟ほどマンションが建設され、通学区域が変更されたことで入り組んだ通学区域となっている。長い目で見て適正配置や通学区域を審議していきたい。